

Noto PLUS

6

「ヨーサ、ヨーサ」
海の男たちの熱気が
大漁を呼ぶ。

石川県指定無形民俗文化財
小木のとも旗祭り(5月3日)



広報のと
第88号

平成24年6月1日発行

■発行・能登町 ■編集・広報情報推進課
〒927-0492
石川県鳳珠郡能登町宇出津新1字1-97番地1

☎: 0768-62-10000(地)
能登町URL: <http://www.town.noto.lg.jp>
Eメール: info@town.noto.lg.jp



ぶらり里山
ゆらり里海

第6回 『風土千年』



『家族』という担い手

景

観十年、風景百年、風土千年といえます。千年続く能登の風土の正体、それは能登の家族ではないでしょうか。家が伝承する風土です。

例えばユネスコの世界無形遺産に登録された「アエノコト」。世界が驚いたのは、家長が田の神様をまるで実在する客のように接待する振る舞いよりも、原初的な農耕儀礼が「家族の神事」として存続していたことに対してです。豊作への感謝を神社の儀式とせず、千年の昔のまま祈りを捧げる家族行事として手放さなかった能登。タイムカプセルのような風土です。

大きなキリシマツツジが農家や旧家に点在し、樹齢百年以上の古木が五百本以上ある能登半島。「こんな所は世界にない」とツツジ研究の先生も驚きました。江戸時代の園芸品種キリシマは一世を風靡してから消えていったのに、能登では絶えることなく育てられていました。数百年前に苗木を植えたその本人は見られなかった夢の情景を、何世代も受け継いできた子孫が深紅の大本として愛でています。まさに一本一本が風土そのもの。ほかにも合鹿碗・壮麗な仏壇・食文化・伝承など、このような例は枚挙に暇なしです。

能登半島が世界農業遺産になって、今度は能登の人が驚きました。家庭内の古臭いモノ・コトにも地域、日本、世界に通じる価値があると評されました。時間的蓄積はどんなにお金を積んでも作り出せない価値です。伝統を見直し本来の形で継承することは、変化の激しい現代においてはむしろ先進的で前向きな取り組みです。

ところで家族が風土を担ってきたのなら、人が居なくなれば五百年・千年と続いてきた風土が消滅することを意味します。大きな「のとキリシマツツジ」が空き家の庭で満開を迎える時、問いかけてくるようでした。

写真・文 山崎昭宏

[PROFILE] Yamazaki Akihiro

昭和42年埼玉県生まれ。平成21年能登町笹川に移住。小学校で2回、中学校で3回転校。引越し9回、大学進学以降、仕事場は東京。転職7回、主に貿易関連業でヨーロッパ出張多数。学生時代に自転車で日本を一周したが能登には寄らなかった。ブログ: ゆらりぶらり <http://blog.livedoor.jp/yurairurari/>

